

農福連携 JA

④

今回は、道府県が実施している農福連携のマッチング支援の中でも、先進事例として知られており、かつ、JAが重要な役割を果たしている香川県での取り組みを紹介します。

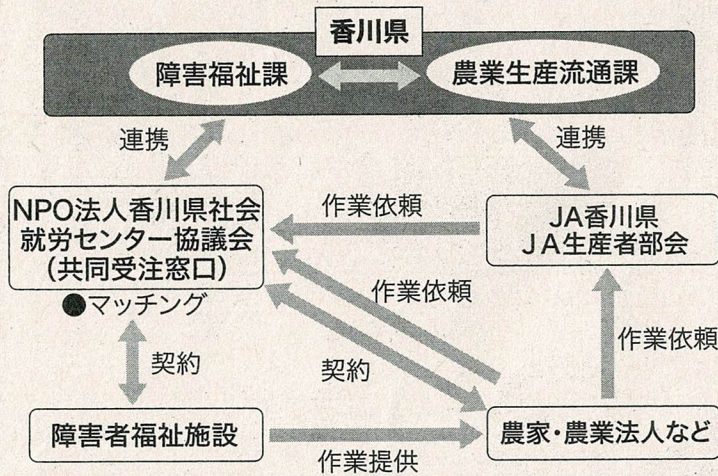
一 農家に複数の事業所から派遣

具体的には、「作業を委託したい」農家などをJA香川県が取りまとめ、これと「作業を受託したい」障害福祉サービス事業所を香川県社会就労センター協議会が取りまとめ、両者をマッチングする支援を2011年から実施しています。県の農業部局と福祉部局の後押しを受けて、JAと障害福祉の団体が連携することで実現した成功例と言えます。

千葉大学大学院園芸学研究院教授 吉田 行郷氏

マッチング支援・香川県の取り組み

香川県による農福連携への支援スキームの概要



※作業工賃については、共同受注窓口が農家・農業法人などに請求し、障害者福祉施設へは共同受注窓口を通じて支払われる仕組みとなっている。

(筆者の聞き取り調査を基に作成)

香川県で行われているマッチングの大きな特徴は、作業を依頼する農家・農業法人の経営規模を踏まえて、例えば一農家に対して複数の障害福祉サービス事業所を派遣するマッチングを行っているところ。これにより、農家・農業法人側が期待している作業の終了日までに作業を終えてもらうことを実現しています。

作業能力を理解 増える実施項目

その後、評判が口コミで広がり、このマッチングの取り組みは次第に本格化し、21年度現在では、同県協議会のメンバーである約99の障害福祉サービス事業所のうち、施設外で障害者が作業できる態勢にある40

職場づくり塾

第4部

の事業所が101の農家・農業法人の農作業を手伝っています。これには、延べ1万3500人の障害者が参加しており、実施面積約28万坪、作業料収入1520万円というところまで取り組みが拡大しています。実施する作業も16年度時点で20品目(作目)、74項目まで増加しています。その背景には、作業を依頼する農家が、障害者の障害特性や作業能力に対する理解を深めたことが挙げられます。作業請負が発展し、障害者を直接雇用する農園も出現しています。

収益・品質向上 社会貢献に喜び

そして、同協議会では、こうした取り組みが農家の収益向上にも結び付いていることが、取り組みの拡大につながったと評価しています。具体的には、①担い手農家で、規模拡大や営業

に充てられる時間の増加②重量作物(タマネギ、キャベツなど)や、高齢農家の労働力として力を発揮することによる営農の継続③適期に短期間で収穫できることによる品質向上——といったメリットが委託元の農家にあることから依頼面積が拡大していると分析しています。

他方で、障害福祉サービス事業所側にもメリットがあります。具体的には、①障害者の工賃の引き上げ②汗をかき喜び、体力づくり、ストレス発散、農家や自然との触れ合いといった、内職的な作業にないメリッとの享受③地域農業の振興の面で社会貢献ができ、それを職員・障害者が共に実感できる——といった点が挙げられています。この取り組みにおけるJA香川県の果たしている役割は大きく、JAが本気で取り組むことで、農福連携が大きく前進することを示した好例と言えると思います。

JAの本気で前進

(次回は10月4日付)